

## 県教育委員会事務局での高校生インターンシップを終えて

### 1. 県職員の方へのインタビュー

実際に働いている方にインタビューしました。どのような事を目標にしているかと質問し「より納得できる仕事をする」、「目の前のことに一生懸命に取り組む」と答えていただきました。答えていただいたことは、これからの学校生活にもいかせることだと思いました。仕事に一生懸命に取り組むことでその仕事にやりがいを感じ、楽しんで取り込むことができると勉強しました。

### 2. おしごと広場みえ・サポステみえへの訪問

「おしごと広場みえ」と「若者就業サポートステーション・みえ」に行きました。そこで就職した職場へ定着するように支援しているという事などのお話をさせていただきました。就職をするのに悩んでいる人が多くいて、相談出来る場所があると知り、周りに悩んでいる人がいたら相談が出来る場所があるとアドバイスしようと思います。



### 3. 新聞情報収集・情報整理、郵便物の準備

毎日の新聞で、教育に関する記事を切り貼りして見やすいようにまとめる仕事を体験しました。記事をどのように貼るかを考えるのが楽しかったです。

郵便物の準備は封筒に書類を入れたり、郵便の伝票に何冊送るかなどを書き入れたりしました。始めはあまり早く作業が出来ませんでしたでしたが、徐々に慣れてきて少し早く作業が出来るようになって嬉しかったです。

### 4. 課題レポート作成

「多文化共生社会」という課題でレポートを作成しました。この課題について調べたり、お話を聞かせていただいたりして、生活習慣の違いや日本語でコミュニケーションが取れないなどの理由で外国人の働けるところが少ないと知りました。そこで、どうしたら外国人とコミュニケーションが取れるかを考えました。私は、同じ社会に生きる人同士がお互いに相手のことを知ることが大切であると思いました。



### 5. まとめ



普段体験できない事をさせていただき、どのような仕事があるのか、実際に体験しないとわからない事が知れ、貴重な5日間でした。仕事の様子から、周りの人とのコミュニケーションがしっかりと取れていて、色んな人と協力し相談をしながら仕事を進めていることがわかりました。普段の生活では、コミュニケーションを取るために挨拶から始めようと思いました。

## 県教育委員会事務局での高校生インターンシップを終えて

### 1. おしごと広場みえ・サポステみえへの訪問

2日目にアスト津3階にある「おしごと広場みえ」と「若者就業サポートステーション・みえ」に行ってお話を聞きました。若い人の県内での職場定着をめざして活動されており、三重にはこんな働き場所があるとPRしているそうです。進学する人の約8割が県外に行ってしまう、その約3割しか三重県に帰ってこない事実を知り、県内で就職したいと思っていた私には衝撃でした。

### 2. 県職員の方へのインタビュー

実際に働いている方に、インタビューしました。「その時の職場に応じて資格を取る」という答えに、驚きました。簡単なことではないのにそれができるといことは、積み重ねた経験と継続的な努力があるからこそなんだろうと思いました。また、「スピード感が大事」と聞き、社会に出たら、自分の遅れは自分だけのものではなく、全体に迷惑が掛かってしまうことを教えていただきました。



### 3. 新聞情報収集・情報処理

三重や教育に関する記事を収集し、一つにまとめる作業をしました。私たちは貼る作業をしました。一日に何種類もの新聞の中から教育に関する記事を探し出し、切る作業を毎日することは大変なことだと思いました。

### 4. 課題レポート

「多文化共生社会」をテーマとした課題に取り組みました。今まで授業で少しこのテーマに触れることはありましたが、深く学び考えたことは初めてでした。言語の壁や生活習慣の違い、外国人労働者の現状を知り、解決が必要な課題が多くあると感じました。「外国人だから」という理由で日本人と扱いが違う今を変えたいと思いました。



### 5. まとめ

県庁で普段はできないことが体験できました。初めは緊張して固まっていたのですが、皆さんに優しく笑顔で接してもらい、時間が経つにつれ、徐々に緊張もほぐれ楽しみながら学ぶことができました。私はメモを取ることの大事さを知りました。メモを基に疑問に思ったことを質問することができ、後から見返すこともできるのでとても重要だと思いました。5日間新鮮なことばかりで、緊張し悩むこともありましたが、貴重な体験ができてとても楽しかったです。学んだことを高校生活や就職のときに生かしたいと思います。